












■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2016(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)大和ハウス工業(株)北九州支社ビル B棟	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.6 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.6	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.0	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.2
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
躯体材料以外のリサイクル材としてグリーン調達対応長尺塩ビシート、タイル、再生加熱アスファルト混合剤を採用する。また、構造をS造を選択することで躯体と仕上げ材の分別を可能としている。		対応性・更新性で、階高3.7~4.1m、壁長さ比率が0.16と空間にゆとりを持たせ、EPSやOAフロアを設けて配線の更新性に配慮した。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	LR2/ 1.1 節水	スコア 4.0
ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して77%。		使用水量が少ない便器などの省水型機器を設置。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2.0	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 1.0
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3.0
敷地内に緑地や植栽を設け、建物の壁面緑化を行うことで緑の量の確保を行った。また、敷地内に散水栓を設け、管理計画をした。		敷地内に一部緑化を設けた。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3.0	建物の外皮性能 (BPI評価)	
建築物移動等円滑化基準項目の半分以上を満たしている。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0.66
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.71
		外構緑化指数	7.4 %
		建物緑化指数	0 %

: 入力欄

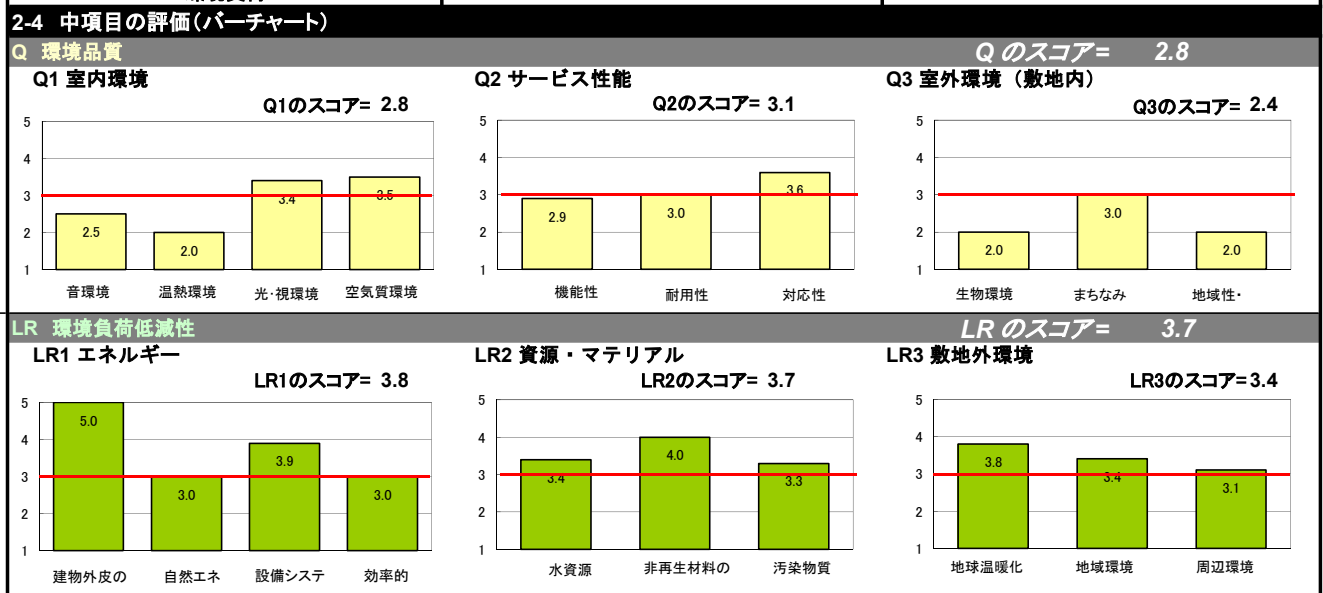
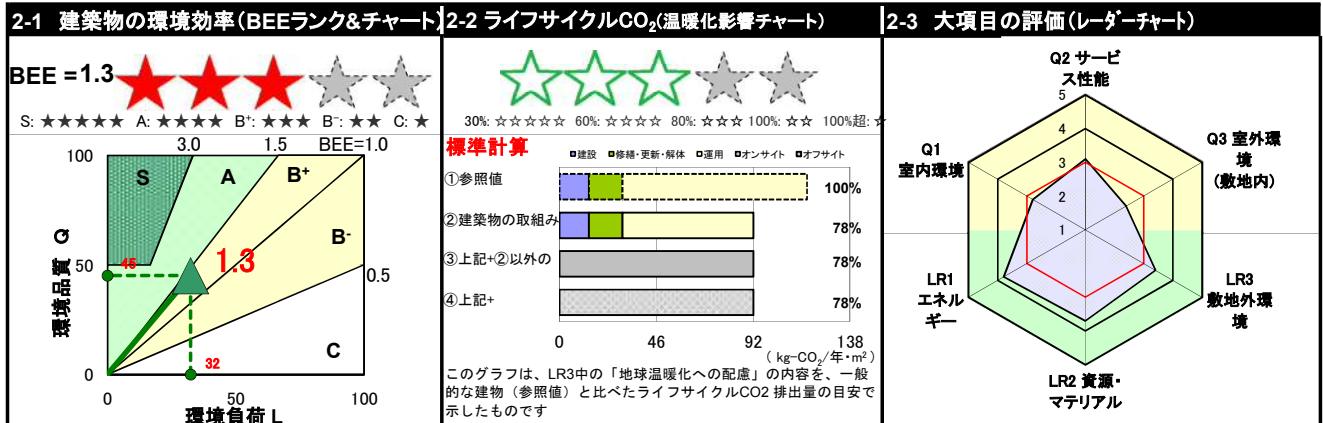
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.0))

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和ハウス工業(株)北九州支社ビル B棟	階数	地上2F	
建設地	福岡県北九州市小倉北区貴船町3番2号	構造	S造	
用途地域	第1種住居、準防火地域	平均居住人員	60 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	1,936 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2017年4月14日	
敷地面積	847 m <sup>2</sup>	作成者	山中裕二	
建築面積	476 m <sup>2</sup>	確認日		
延床面積	905 m <sup>2</sup>	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
福岡市に建設する自社施設として、自社がかかげるモットー「ア・ス・フ・カ・ケ・ツ・ノ」の内の環境に配慮し、省エネルギー技術による環境負荷低減に配慮した。	0	
<b>Q1 室内環境</b> タスクアンビエント照明による必要な机上照度を確保するなど、光環境に配慮した。F☆☆☆☆建材採用による空気環境改善などの配慮を行っている。	<b>Q2 サービス性能</b> 居室の天井高を2.7mとし在居者への快適性を考慮した。また、EPSやOAフロアを設けることで電気・通信配線における更新性への配慮も行っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内を一部緑化することにより、生物環境の保全、景観形成を行っている。また、通風・緑化による暑熱環境緩和により地域への配慮も行っている。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物の熱負荷抑制、高効率機器の採用により省エネルギーを実現している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 省水型機器採用することにより水資源保護への配慮、リサイクル材の採用や躯体と仕上材を分別可能な設計を行うことで非再生性資源の使用量削減を行っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物をオール電化とし燃焼機器を使用しないことにより、大気汚染防止を考慮した。光害抑制による周辺環境への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)大和ハウス工業(株)北九州支社ビル B棟**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.5</b>	0.15		-	<b>2.5</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音		<b>1.8</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能		<b>1.0</b>	0.60		-	
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35		-	<b>2.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50		-	
1 室温		<b>3.0</b>	0.38		-	
2 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25		-	
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38		-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.4</b>	0.25		-	<b>3.4</b>
3.1 屋光利用		<b>2.4</b>	0.30		-	
1 屋光率		<b>2.0</b>	0.60		-	
2 方位別開口			-		-	
3 屋光利用設備		<b>3.0</b>	0.40		-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 屋光制御		<b>3.0</b>	1.00		-	
3.3 照度	全般照明方式で500lx以上	<b>4.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御	1作業単位での照明制御が可能	<b>5.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を採用、ホルムアルデヒド以外にも配慮	<b>4.0</b>	1.00		-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量		<b>3.0</b>	0.33		-	
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33		-	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50		-	
2 喫煙の制御		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.9</b>	0.40		-	<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33		-	
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.3</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m	<b>4.0</b>	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		<b>2.0</b>	0.33		-	
3 内装計画	建物のコンセプト、機能の明確化、照明計画の事前検討	<b>4.0</b>	0.33		-	
1.3 維持管理		<b>2.5</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種の内、2種類以上にB以上を使用、Eは不使用	<b>5.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性		<b>2.8</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備	空調の系統を区分	<b>4.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		<b>2.0</b>	0.20		-	
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備		<b>2.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30		-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高3.7~4.1m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.16	4.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	壁配管EPS、横配管OAフロア	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	壁配管EPS、横配管OAフロア	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	外皮及び開口部の断熱性能に配慮	5.0	0.20		-	<b>5.0</b>
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.71	3.9	0.50		-	<b>3.9</b>
4	効率的運用		3.0	0.20		-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価		-	-		-	
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		-	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1	節水	省水型機器の設置	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60		-	<b>4.0</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.14		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン調達対応長尺塩ビシート、タイル、再生加熱アスファルト混合	5.0	0.29		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造の為、躯体と仕上げ材の分別可能、内装材と設備錯綜せず	5.0	0.29		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0,GWP=11の発泡剤を使用	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			換算スコア3.9	3.8	0.33		<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33		-	<b>3.4</b>
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外・屋内照明および広告物照明への配慮、配慮事項は別紙参照	4.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	